



5年2組
秋葉 秀央くん



『秋の尾垂観音』

※いちようの木がお寺の前にくるように、また秋の様子が出るように、落葉とお尚さんを描きました。



1年2組
椎名 由香里さん



『しゃもとわたし』

※しゃもがこわい目をしていたので、びつくりしてしまいました。



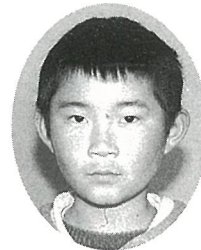
6年2組
小川 雅央くん



※のびのびと力強く書きました。



『すてきなぼうし』



3年2組
伊藤 貴仕くん

※形を立体的につくるのがむずかしく、かざりはとれないように、切りこみを入れました。

ひかり俳壇

椎名 静子(二又)

元朝の夫の尿澄み恙なし

尿瓶の液体が透明に澄んでいるのを見た時の欣びと安堵感、迎春の喜びは深い

鈴木とし子(宝米)

農に生き老いて悔なし今朝の春

農を愛し、夫と共に農業にかけて来た作者の諦観とも言える逞しい農民魂

秋山 一泉(栢田)

子と年酒かはして凡にすこしをり

何年ぶりだろう、子育ての終わった息子と正月を寿ぐ。満ち足りた一ときである

伊藤 幸枝(尾垂六区)

冬ぬくしそれだけで足る老いの日々

予後の身を労る高年の作者にとって暖冬は、何より勝る贈り物であるだろう

大谷 武彦(木戸)

平成の年越そばは中華めん

日本古来の風習、年越そばは中華だった。俳句のユーモアもこれが限度である

「短評」 椎名しげる